

# 自分の可能性を信じて・3

## 続々・オペラ歌手チャレンジ物語

平尾 啓(56年卒)



ワグネリアン2020年6月の145号、翌年の149号に投稿後、1年半が経過し私も様々なオペラ歌手としての経験をしましたので、続々編を書かせていただきます。

### 歌劇「源氏物語」 惟光役

2023年2月19日14時開演

bunkamuraオーチャードホール

私にとって3つ目(※1)のソロオペラ歌手としてのオペラ出演となりました。1年半ほど前に出演依頼をいただきましたが、私のようなデビューコンサートをしたばかりの「超新人」の歌手にグラントオペラで日本語日本初演という日本オペラ協会としてとても大切な公演への出演のご依頼で、とても恐縮するとともにワクワクが止まりませんでした。

(※1)2021年4月25日・日本オペラ協会公演・歌劇「魅惑の美女はデスゴッデス!」、2022年2月27日、3月7日・藤沢市民オペラ公演・歌劇「ナブッコ」に続く3つ目

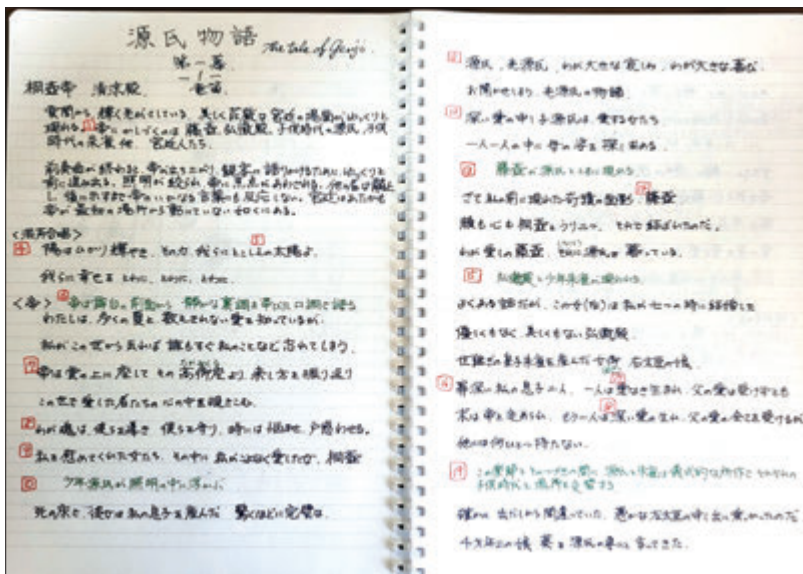


実は、私は源氏物語を高校の参考書では勉強したことがあっても、通して読んだこともなく、私の演じる「惟光」も知りませんでした。そこで参考書籍を買おうとしましたが、とても分厚くまた高価で諦めざるを得ませんでした。仕方なくインターネット上で源氏物語の原文、現代語訳を読みましたが、読むうちに源氏物語への私なりの思いが芽生えてきました。

### 楽譜が送られてきた

源氏物語の楽譜が送られてきた。B4版で手書き、1、3kgという超デカ楽譜。まず私の歌う個所のチェックをすると、なんと第1幕の最後(144ページ目)が登場の最初。何度も見落としていないかチェックすると、第2幕第11場に惟光が歌うシーンが集中していました。心の中で「やった!活躍できる」と小躍り。

楽譜全体を把握しようとして、歌詞など楽譜に記載されている文章を頭から読んでいきました。が、手書きで達筆なので、なかなか読み進めることができません。そこで、全文をノートに写して、それを読むことに。楽譜の読み飛ばしや不明な点をそのままにすることもなくなるとも思ったのです。



### 音楽稽古が始まった

2022年11月28日、ついに音楽稽古がスタート。しかし今回の音取りは困難を極め、「このオーケストラの音の中からどうやって自分の音を採ればいいのか」ということを必死で探りました。いつもお願しているピアノリストにも相談したところ、「身体に覚えこませるしかない」という結論に。ピアノ伴奏で稽古していた時はまだよかったのですが、実際のオーケストラの音で稽古すると、使われている楽器はわかっていても、そこから自分の歌につながるものが最初は難

しく、このタイミングで早く気が付いてよかったと思いい知りました。惟光の歌唱する多くの小節頭に『α』『m』と記載されています。『α』は「歌手の音楽性に任せる休符」ということで、田中祐子マエストロからも、この部分は「はい、どうぞ」と合図だけで任せていただきました。とてもやりがいが出てきました。「出番は少ないけれど命がけでこを歌おう」、そう思いました。オペラ終演後、田中マエストロから「実直で、でも温かく真摯で伸びやかな歌声は、私は第一声を聴いた時から大変心強かったです。絶対に良い演奏をしてください、そう思いました。そして素晴らしい歌声とお芝居に私は何度も涙を耐えました」とお言葉をいただきました。最初の立ち稽古で歌ったときに演出の岩田達宗さんからも、「三木稔さんはこの第11場、惟光にこんな素晴らしい音楽を持ってきて。期待している」と言っていました。

### この衣装で演技できるの?

2023年1月17日は衣装合わせの日。初めて惟光の衣装を着てびっくりしたのは、「これでは動けない、息も苦しい」。岩田さんからは、舞台を走り、階段を上り、胡坐あぐらから手を使わずに立ち上がれるか試しておいてと言われていました。が、なんと衣装を着たら「手を使わず胡坐から腰を浮かす」こともできないのです(普段着では簡単な動作なのに)。

岩田さんから「体幹を鍛えたら」とアドバイスをもらい、その日から、YouTubeのダイエットダンス、ストレッチを日課としました。また、和物の稽古着は浴衣で行いですが、本番衣装に少しでも近づけようと、綿入れの分厚く重い和服を用意し、また激しく動くことができるように剣道用の袴を購入しました。稽古着はキヤスト全員当然のように一人に着付け(足袋、和服、袴、扇子)ます。当初は30分以上掛かって大変でしたが、最近はなんと3分程度で着ることができるようになりました。日常から和服を着るのも意外とよいものだなと。足袋の洗濯も結構うまくなりましたよ。石鹼「ウタマロ」と洗濯板を上手に使うことができますようになりました。

### 演技について

岩田達宗さんの演出で3つ目のオペラ。そして私の出演したオペラ。



ラは3つ。つまり、私のオペラ出演のすべては岩田さん演出のもの。私は岩田さんの作品に対するち密で大胆に愛に満ちた演出がとても好きです。私は61歳に。脇役でも61歳の歌手はほとんどいないのではないかと。そう思うと、今回こそが私の大きなオペラへの出演の最後。岩田さんとも最後となる。毎回の稽古を最後までカウントダウンして、心残りのないものにしてと稽古に臨みました。

また初日組の同じ惟光役は、ベテランのバリトン和下田大典さんでしたので、まずは彼の演技を真似るところから始めました。和下田さんの素晴らしいところは、姿勢が真つすぐであること。そして、彼のちよつとした動きにどのような思い、衝動があるのかの意を觀察しました。そして猿真似を。次に演技の流れが頭に入ったところで、今度は頭の中を空っぽ

にして、自分のアンテナで主君である光源氏、関係する女性たちの思いを察知し、それをトリガーに演技をすることにしました。すると「もののあわれ」を感じ、光源氏や彼女たちの人生に涙している自分に気づいたのです。すると岩田さんからは演技を追加する依頼は受けますが、内容の注意は無くなりました。

そしてゲネプロの日、岩田さんから「良い意味でなおすところはありません」と言われました。私から、「もう私は61歳で、これが先生の演出でできるオペラは最後かと思えます。ありがとうございます」と申し上げると、「平尾さんは年々進化しているね。今回の歌唱・演技をしていけば、平尾さんをオペラ起用しないような人はいないよ。これからもよろしく」とおかげさまで本番は心残りなくできました。

### 歌劇「源氏物語」について思うこと

源氏物語は様々な解釈で多くの書籍、漫画、演劇で取り上げられています。コリン・グレーム(台本)と三木稔(作曲)は、歌劇「源氏物語」を、どう描こうとしたのかを考えました。まず注目したいのは、前半40帖までの光源氏を描いているところ。

「源氏」は現在であるなら、源頼朝、源義経など武士のヒーローがいるので、この「源氏」は悪い意味は見出せない。しかし、平安時代の皇族周辺における「源氏」は、皇族から臣下に格下げされた皇子であるという烙印そのもの。また「光」も彼の正式な名前ではなく、才能、知識、教養の豊かさ、顔立ち・姿の美しさに対して「光のような」という言葉を当てられたもの。一方、日本語には「影」は「光」を、「光」は「影」を表す表現が。つまり「光源氏」の心の中の鬱屈した部分、満たされない部分をも「光」は表していると思われま

す。そのうえ母に3歳で死別し、父母の愛を求める気持ちは少年のまま固定され、そのあとの彼の精神を侵している。つまり「光源氏」の名前には『心に闇を持った皇族でありながら臣下に格下げされた人』という意味があるので

す。光源氏の関係する女性たち、この歌劇「源氏物語」では、六条御息所、葵上、藤壺、紫、明石の姫の5人に絞って描かれています

日本オペラ協会サイト  
源氏物語舞台裏レポートは  
こちらのQRコードから

が、光源氏は彼女たちの心の闇や寂しさを、泣き叫ぶ声に決して見捨てることなく心をすつと寄り添わせていきます。矜持をもった年上の女性である六条御息所から「(私たちの)絶望を知れ、恥辱を知れ」と言われても、勝気で可愛くないことが理由で生前愛すことのできなかつた葵上に對しても、彼女らの心の叫びに接したとき、光源氏は強い愛を感じることでできたのでした。このように「源氏物語」を読んでみると、西洋人には理解できない平安時代の日本人特有の「もののあわれ」を感じることができるとは思いません。

また、原作「源氏物語」は、朝廷での最高権威者となった光源氏、光源氏の子供たちも大出世し、すべてを得る。すべてを失った光源氏一族の再興の物語とも読むことができます。歌劇「源氏物語」の大団円はこれを描いたもの。

確かに紫上の描かれ方など原作といくつかわずらう点がありますが、この主題を明確に描くためのものであると思

います。

今回は、直近で演じた歌劇「源氏物語」のことを書かせていただきました。ご来場いただいたワグネル関係者の皆様、本当にありが

とうございました。今後もオペラ歌手として頑張つて研鑽してまいります。どうぞ、応援のほどよろしくお願いします。

そして、お願いがあります。今後のコンサート予定を書かせていただきます。私のような新人歌手にとつて、お客様動員力というのは実力よりも大きな意味を持ちます。必死で歌手としてのクオリティを上げていきたいと思っておりますので、コンサートへのご来場のご協力お願いします。「☆」マークのあるものは、皆様誘いあわせの上、ご来場ください。

### 今後のコンサート情報

- ♪ 4月19日 大阪府立北野高校創立150周年記念 東京六稜倶楽部 (Recital)  
@銀座クラシックホール (銀座ライオン6F)
- ☆ 5月13日 Hiroshi&Yuma Duo Concert (競演 / 松原悠馬 ※オペラ研修所の同期)  
@雑司が谷音楽堂
- ☆ 6月10日 藤原歌劇団主催 「テノールの饗宴」出演  
@和光大学ポプリホール鶴川
- ☆ 6月17日 日本オペラ振興会 デビューコンサート  
@イノホール
- ☆ 8月5日 藤原歌劇団主催 オーダーメイドリサイタル(Recital)  
@イタリアンピアノダイニング「エストリア」
- ♪ 11月26日 藤沢市民オペラ公演 歌劇「オテッロ」 総督役  
@藤沢市民会館大ホール

※☆の公演は私の手元にチケットがございますのでご連絡頂ければ幸いです。

公演の詳細、チケットのお求めなど、お問合せは平尾まで

E-mail: hiroshihirao@outlook.jp / 電話: 090-4544-6545